

日本酒で乾杯推進会議「広島大会」レポート 広島の地酒で日本文化に乾杯！

11回目の地方大会。秋天の広島に轟き渡る「日本酒で乾杯！」の歓声



日本酒で乾杯推進会議の広島大会が10月7日の午後、ANA クラウンプラザホテル広島で開催されました(主催＝日本酒で乾杯推進会議、同広島大会実行委員会、広島県酒造組合／後援＝広島国税局、広島県、日本酒造組合中央会他)。同会議の地方大会は11回目。秋深まる広島の下に、日本文化の再生を祈る乾杯の歓声が轟いて、乾杯運動への支援の輪がまた広がった！



■ 基調講演、パネルディスカッションなどが行われたシンポジウム会場



■ 広島酒の地酒と広島産食材の料理を楽しんだ「広島酒のひろば」

華やか & 充実の乾杯イベント



市の中心部、平和記念公園のほど近くにそびえるANAクラブウンブラザホテル広島

日本文化のルネッサンスをめざして、13年にわたって繰り返されてきた「日本酒で乾杯運動」。今では、各自治体での乾杯条例制定も進み、パーティや飲み会のはじめに日本酒で乾杯する風景も珍しくなくなってきました。

日本酒で乾杯推進会議の地方大会は、運動の全国普及を目的に毎年秋、地元の酒造組合と協力して開かれるもので、今大会は、①発酵学者の小泉武夫氏による基調講演とパネルディスカッション、地酒パーティを組み合わせさせた「シンポジウム」、②広島の地酒と食を体験する「広島の酒ひろば」という2つのプログラムが別会場で同時進行する盛りだくさんな企画。名高い「西条酒まつり」(10月8・9日)の開幕前日、しかも広島東洋カープ25年ぶりのセ・リーグ制覇直後と、お祝い気分漂う広島市を舞台に華やかな乾杯イベントが繰り返されました。



■ シンポジウムの冒頭、広島県酒造組合の三宅清嗣会長(広島大会実行委員長)が主催者挨拶。「耳で(話を)聴いて、口で(お酒を)利いて、1度で2度も3度もおいしいイベントです。皆さん、今日は存分に楽しんでお帰りください」



■ 続いて日本酒で乾杯推進会議の石毛直道代表(国立民族学博物館名誉教授)が登場。「日本文化の象徴である日本酒で乾杯することで日本文化に思いを馳せる。それがこの運動の狙いです」



◀「広島の酒ひろば」はお楽しみ企画も充実。トークショーでは前広島東洋カープ監督の野村謙二郎氏(左)がカープの活躍を巡って熱いお話を。中央はゲスト出演の島谷ひとみさん



▶ 広島県出身の歌手・島谷ひとみさんのコンサートで、会場はヒートアップ。



別室には、広島の酒販売・提案コーナーも開設。広島47歳元の酒を販売したほか(上)、提案コーナー(下)では、研究機関やJA、精米メーカーなどが広島地酒の個性化へ向けた新たな取組などを紹介。



シンポジウム・第1部★耳で楽しむ、基調講演とパネル討論



シンポジウムの第1部は基調講演とパネルディスカッション。基調講演は、発酵学者の小泉武夫氏が「世界を醸す」と題して、「世界に冠たる日本酒文化の凄さ」を、歴史、麹菌、精米技術、酒肴、酒器、粹(いき)といった面から縦横に論じたもので、「縄文土器に酒造りの痕跡が認められる。麹作りも奈良時代には始まっていた」「日本酒の世界ではパストールより300年も前に加熱殺菌(火入れ)を知っていた」など、時にユーモアを交えた博識多彩な語り口に、来場者は関心したり、大笑いしたり。



討論の最後には、パネラー全員で「広島の酒で乾杯！」

一方、「私の乾杯」をテーマにしたパネルディスカッションでは、コーディネーター役の小泉氏を中心に、広島県の湯崎英彦知事、広島県出身の歌手・島谷ひとみさん、日本酒で乾杯推進会議の西村運営委員長、広島県酒造組合の三宅会長の4人が、広島の酒造りや乾杯の思い出、若者と日本酒などの話題を巡って、興味深いやり取りをかわしました。パネラー各氏の発言のポイントは下のとおりです。



小泉氏 ガンや糖尿病の予防など、日本酒の健康機能の凄さはすべて麹菌の力。広島の酒は、原料の利用など、地元へのこだわりが強いですね。



湯崎氏 広島県は美味しい酒造りの工夫を重ねてきました。近代の日本酒は広島抜きで語れない。新しい地平を切り開いてきたことに誇りを感じます。



島谷氏 料理を邪魔しない日本酒は、広島焼きにもピッタリです。記憶に残る乾杯は、父親との乾杯。ちょっと恥ずかしかったけど、いい思い出です。



西村氏 10月1日・日本酒に実施した全国一斉乾杯には、若者も含めて7万7千の人が参加してくれました。来年もぜひ頑張りたいと思います。



三宅氏 広島の酒は9割近くが米も水もオール広島産。若者には、いろいろな酒をちょっとずつ試して、日本酒の美味しさを知ってほしいですね。



シンポジウム・第2部 ★ 地酒パーティで広島の酒と食を堪能



お待ちかねの第2部・地酒パーティでは、最初に日本酒造組合中央会篠原会長の開会挨拶、湯崎広島県知事が歓迎の言葉を述べたのに続いて、西村運営委員長の発声で一斉乾杯（上の写真）。参加者は、広島の酒と食を堪能しながら、歓談のひと時を楽しみました。途中、来年の開催地となる茨城県酒造組合の廣瀬会長が「水戸の黄門様も大変なお酒好き。そんな茨城から乾杯運動を発信できるのは大変光栄。ぜひお越しください」と挨拶しました。



廣瀬会長



■「13年運動を続けてきて、全国に日本酒で乾杯が広がっています。政府もクールジャパン戦略の中で日本文化と日本酒の国際化に力を入れており、運動が通じた結果と自負しています。継続はすごい力です」（篠原会長の開会挨拶から）



■「G7 外相会議の開催、米オバマ大統領の来県、そしてカープの優勝と、今年はまさに広島イヤー。そして今、日本酒で乾杯推進会議の広島大会が開かれて、本当に素晴らしい一年になりました」（湯崎知事の歓迎の言葉から）



「広島県人にとって日本酒は最大の誇りです」



「インドでも日本酒は絶対受けると思うよ」



「小泉先生のお話で日本酒文化の凄さを実感」



湯崎知事を囲んで（中央はミス日本酒2016の田中沙百合さん）



和琴の生演奏も



料理は広島産の食材



三宅会長の発声で中締め乾杯



広島の酒ひろば ★ 広島地酒を徹底体験。ゴージャス試飲会



シンポジウムと並ぶ今大会の目玉「広島の酒ひろば」は、広島地酒の全貌を徹底体験できる試飲イベント。前半はシンポジウムと同時進行の形で進められましたが、「地酒パーティ」終了後はすべての参加者が集合。午後 6 時半に鏡開きと一斉乾杯を行った後、参加者は広島産の佳肴をツマミに、ゴージャスな試飲タイムを満喫しました。会場では、広島の 47 蔵元が総出でサービスに当たったほか、途中、島谷ひとみさんのステージも行われ参加者大興奮(2 頁の写真)。あちこちにミニ乾杯の花を咲かせていました。



■ 会場には、広島県選出の岸田外務大臣が来賓として出席。「今世界中で日本酒ブームが起こっている。外務省でも、催事にはすべて日本酒を使うことにしました。日本酒で乾杯運動も世界に広がることを祈ります」と挨拶しました。



岸田外務大臣も交えて鏡開き。この後、一斉乾杯(1頁の写真)が行われた。



前広島東洋カープの野村監督

瀬戸内の味覚



蔵元の説明を聞きながら好みの銘柄を見つけるのも、楽しい体験



「200%楽しませてもらったね。乾杯！」



「若者の日本酒離れなんて、広島にはない！」



「お酒も料理も島谷さんのステージも全部満足」